

“わか杉っ子の「キャリアノート」”（秋田わか杉「キャリアノート」）等の活用事例

学校名	鹿角市立十和田中学校
-----	------------

1 本校における活用のねらい

- ・生徒が自らの成長過程を記録することで、自分を見つめ、将来の夢や目標について考えることができるように活用する。
- ・ふるさと教育・キャリア教育の活動記録を残しておくことで、学びの履歴を小学校から中学校、そして高校へと貫いて把握する。

2 活用の仕方

- ・学年の始めにできるだけ具体的な目標設定を行い、そのために、いつ、何をするかを明確にして記入する。
- ・学年の終わりに1年間の取組について振り返ることで、次年度の目標設定につなげる。また、「私の履歴書」についても記載する。
- ・最終学年時には、学校生活全体を振り返って、今残したいことを書いたり、残したいものを貼ったりする。
- ・保護者にも見ていただき、コメントを書いてもらう。
- ・鹿角市で取り組んでいる「ふれあいボランティアパスポート」に活動内容を記入し、キャリアノートに貼ることで活動を振り返ることができるようにする。
- ・ふるさと教育・キャリア教育の活動として、総合的な学習の時間（コナンタイム）に取り組んでいる「十和田魅力アッププロジェクト（TAP）」の振り返りを学年のページに貼ることで、学年毎の変容を見取る。



ボランティアパスポート



全国産業教育フェアでのTAPの発表

3 成果と課題

[成果]

- ・明確な目標をもって学年をスタートすることができた。
- ・振り返りを活用することで、次年度への意識付けにつながった。
- ・保護者と教員が生徒の成長過程を把握し、共有することができた。
- ・生徒自身が読み返すことで、成長を実感することができた。
- ・思考過程が可視化されているので、その時々思いを振り返りながら将来について思慮することができた。

[課題]

- ・ふるさと教育・キャリア教育に関する資料と同じく、ポートフォリオとして職場体験等の進路学習に関する実績も蓄積することで、これまで以上に活用したい。
- ・年度途中で、随時目標を確認したり修正したりする時間を確保することで、より一層活用を図りたい。

自分を振り返り、「なりたい自分」につなげよう

1年間を振り返る

1 この1年間で、4月に書いた「将来、私はこんな自分になりたい!」に変化はあったか。

月 日 ()

色々なことに挑戦した1年だったと思う。それぞれのことで、目標をもち、努力できたと思う。まだ、誰にでも平等にはできていないと思うので、来年度も頑張りたい。

2年生の目標について振り返る

※4月に記入した目標を読みながら考える。

◆学習について

◎成果があったこと

授業で覚えることで、家での学習の負担が、少し減ったと思う。

△不十分だったこと

前半のテストで思ったような点がとれず、順位が落ちていた。3年生では、最初から気を引き締めていきたい。

☆次の学年の目標
学習内容は、授業で理解し、自学で使えるか確認する。
(学習したい)
テストは、自分との勝負!
納得できるテスト勉強を目指す。

◆生活について

◎成果があったこと

事務局に入ったこともあり、自分からあいさつをすることを意識するようになった。

△不十分だったこと

時間を見て行動ができず、時間ギリギリで駆け込むことがたまにあったのでなくしたい。

☆次の学年の目標
事務局長の自覚をもち、全校のお手本になるような生活態度を心がける。
きれいな言葉遣いをする!

◆職業について

「働くこと」、「仕事をする事」についての考え

職場体験をしたことで、働くことの大変さが改めて分かった。普段気にも留めないようなことも、誰かが地道に作業しているのだということを知った。どんな仕事も人のためにやっているのだと思った。

☆次の学年で取り組みたいこと
いまだに何の職業にも興味もてないので、色々な職業に目を向ける。

先生から

自己管理能力に長けて、何事も自分で考え、判断し、率先して行動するところができています。3年生になっても学校の中心として活躍してください。

保護者の方から

勉強でも、生徒会活動でも、自分なりの理想や目標を持って、積極的に取り組んでいたようで、中身の濃い2年生になったと思います。

3年生では、部活でも是非、力を振り絞ってください。

コナン まとめシート

コース名	十和田劇場
テーマ	八郎太郎物語
活動内容	役者

学習する前に考えていたこと

活動が始まる前は、裏方の作業をやるつもりでした。

表に出るつもりは全くなくて…。どんな話を劇にするのかな、音響とか照明をやりたいな、というふうな、ほんやりした感じのイメージしか、もっていませんでした。

実際に学習しての感想等

役割を決める日に、いきなりお母さん役だと伝えられ、最初は何ぞ？と思っていました。伝説自体には関わりのない、ナレーション的な役だったので、どう感情を込めるべきか、悩みました。でも、わらび座の尾樽部さんにセリフの言い方や動きなどのアドバイスをいただいてからは、話し方を意識して変えられるようになり、周りを見るようも出てきて、だんだん楽しくなっていました。元は「お父さん」だった役で、台本の言葉遣いを直す作業もあつたのですが、子どもとの会話が不自然にならないようにゆき子さんと話し合いながら直しました。演出の人たちにも、こうしてほしい、という要望を伝えながら、みんなで演劇をつくり上げることができました。

まとめ (分かったことや考えたこと)

活動を通して感じたのは、「演劇、て難しい!」ということです。役者がセリフを覚えていないと劇が成立しないし、役者ができても演出が合わないと雰囲気が出ない。みんながしっかり役割を果たさないと完成しないものだと分かりました。でもだからこそ「演劇、て楽しい!」とも思いました。みんなで一つのものを作り上げた喜びや達成感、それに関わった人しか味わえません。そんな特別な経験をすることができて、すごく良かったです。

協力する大切さ、役割を果たす責任、終わった時の達成感と寂しさ…。たくさんのことを学び、感じるすることができた、最後のコナン活動でした。

十和田劇場に関わって、本当に良かったと思います!